

水トラストニュース

2007.06 No.17



もくじ

春を味わう	・・・・・・・・・・1
春の“気”を全身に受けて御嵩の小木曾宅に集う	・・・・・・・・・・1
今月の町有林（2007年4月16日）	・・・・・・・・・・3
御嵩町町有林の間伐・枝打ちについて	・・・・・・・・・・5
御嵩町町長選と産廃処分場問題の今後	・・・・・・・・・・6
みたけの森まつり	・・・・・・・・・・7
2007年度定期総会のご案内	・・・・・・・・・・8

「春を味わう」

毎年恒例となった「春を味わう」が、御嵩町上之郷大久後の小木曾清見さん宅をお借りして行われました。「暮らしを耕す会」の山根さんや近藤さん、伊良子灯台勤務の前田さん、知多半島から岩木さんの参加もあり、25人ほどでうらかな春の一日を楽しみました。

先月、お亡くなりになった清見さんは、私達が水源の森を開設するにあたって山を売っていただいた方です。当時は柳川町長を支えて産廃処分場に反対する町会議員のお一人でした。地元には様々なしがらみがある中で、産業廃棄物処分場反対運動を行ってきた我々に山を売るという決断は大変なことであったはずですが、その後も、森の活動のために持ち山を自由に使用させていただき、そのお陰で我々は間伐や枝打ち、小屋造りなどの技術を磨くことができました。清見さんのお通夜の日が先月の森の活動日と重なり、汚い格好で全員でお線香をあげさせていただいたのも深いご縁を感じさせられるものでした。改めて、清見さんのご冥福をお祈りしたいと思います。

コゴミ、タラノメ、ヨモギなどの天ぷら、14種*の野草が入ったゴマ・クルミ和え、ゴボウのくるみ和え、蓴味噌、ツクシの佃煮、ワケギ、ノビル、ヤブカンゾウ、ナルオユリ、ギボウシのユズ味噌和えなどなど、犬山からご参加の谷本さんが準備してくださった数々の料理に大満足でした。

「食べる会」の前に、森へ入って枝打ち、椎茸の菌打ち、5月3日に予定されている「みたけの森祭り」に出展する時に配る焼印付き桧プレートのための桧材の皮むきなどを行いました。同時に椎茸の収穫もあり、翌朝の朝食の味噌汁の具になりました。

(* ミツバ、ホタルブクロ、ホホトギス、ナバナ、レンゲ、ハコベ、ハハコグサ、タンポポ、ハウレンソウ、カラスノエンドウ、ヨメナ、アシタバ、オオバコ、ブロッコリー)

(大沼淳一記)



春の“気”を全身に受けて 御嵩の小木曾宅に集う

暖冬であれ厳冬であれ、冬季の通過をじっと待ち望んで居た草も木も、優しく囁くような風に触れられて、目覚めの刻を迎えました。

世界も！日本も！大人も！子供も！年々歳々どうなってしまったのでしょうか？

おぞましい事柄が溢れ、胸が痛みます。

そんな、ささくれ立った神経に、早春の美しさは鎮痛剤そのもの。

色あざやかな みどりよ、あかるいみどりよ・・・かおる、かおる

わかばが、かおる

思わず口ずさむ唱歌の一曲です。

風薫る、花香る四月第一土曜の一日。

摘み草の会を楽しませて戴くことが出来ました。

“ポリフェノール”で血液さらさら、と、身近にある数種類の野草を摘み、天ぷらに、クルミ味噌や柚子味噌に和えて。何も彼も、小木曾宅に御厄介になってのパーティーです。中国からの可愛らしいお嫁さんも、二人の坊やのママになられ、言葉の不自由もまったくなくにこにこところよく迎えて下さいました。

“水源の森”としての森林保護活動に賛同し水トラストに若いお仲間も増えました。

また、くらしを耕す会の方々の初参加もあり、頼母く、建設的な話題も花盛りでした。

過日、中日新聞の記事で、いわゆる森林ボランティア団体が年々増えつつあって、現在千八百組が活動中ではあるが、もっと多くの人々が真剣になって取り組まないとこのままでは子孫に顔向けの出来ない国になってしまう。これ以上悪くならないように。

身近な自然ばかりでなく、地球そのものが危篤状態なのだ、と。森林が荒れると言うことすなわち命の水の枯渇にも繋がること。

考え込むと胸苦しく、気分は沈むばかり。

ここで大きく深呼吸。

「自然界からの恵み」摘み草のできる場所が与えられているということ。それはもう奇跡に近いのかもしれない。あの戦中の非常時とは違い平和あつての摘み草。のんびりとの贅沢なひと時に感謝！

ウコギ、ヨモギ、アザミ、ヒメジヨン、オオバコ、ヤブカンゾウ、ノビル！

借畑の山の斜面は幾重かの土手になっていて、さながら野の草の宝庫。早春、まめに摘んで冷凍保存。旬を追い、旬に追われ、忙しい台所です。時には、ニョロニョロと長いもの、赤黒と光る足いっぱいモノ。できることならお近づきになりたくはないが、同じ動物仲間。遭遇はさけられません。

「ムカデだァーって、マムシだァーって、ゴキブリだァーて、みんなみんな

生きているんだ、トモダチなんだァー」

と大きなオタケビを上げることにしています。

今回は、思い足を引きずり乍ら、辛い気分で小木曾様に伺いました。

ご主人が、再びお目に掛かる事のできない遠い国に旅立たれ、四十九日の御法要が営まれた

ばかりの時、悲しみや寂しさがまだ新しいお宅へワイワイと二十余名、にぎやかに押しかけてしまいました。そんな中ですので筍ご飯の差し入れ迄頂戴致しました。

すぐ近くに迫る緑の間に間に、山桜やコブシの白い花がもこもこと点在。春宵一刻価千金の面持ちで、しばしボンヤリ。

眼下には、苗代の準備を間近に控えた田園が耕運機の入ったままの状態。「今日の為め、きつと来週に延期なさったのだ・・・」と。

坊や達の鯉のぼり、今年は泳いでいませんでした。上空は青い空が広がって・・・寂しいお庭でした。

水トラストのお仲間、全員集合、最大行事？無事に元気で参加させていただけた事、幸せいっぱい。有りがとうございました。

小木曾様、本当に

有りがとうございました。

(犬山自然を愛するスズサイコの会；谷本常子記)

今月の町有林(2007年4月16日)

これまでは綱木地区町有林のほぼ中央部で鋸谷式選木による間伐を行ってきましたが、本日は東部ブロックで島崎式列状間伐を行いました。このブロックは、中央部と違って樹齢が40年とほぼ均一であり、細い木が多いということもあり、列状間伐の実践に向いているという判断をしたのです。

今日は、木曾谷の伐採会社に就職し、「ホンマモン」の木こりさんになった喜多さんも参加してくれました。チェーンソーの刃を木にあてる前に、まずは根本の樹皮についた泥をこそげとる(刃をいためないように)お作法、クサビを使って伐倒する方向をコントロールする技術や大径木を伐る場合の切り込みの入れ方などのお手本をみせてもらうなど、とても勉強になりました。

作業参加者9名が3班に分かれて作業開始。ひどく込んでいたために、最初の2~3本は必ずカカリ木になってしまいます。林道に沿った部分は電線が走っているために神経を使いました。その度にロー



プで引っ張ったり、「延髄切り」でカカリ木を立て切りしたり大変でしたが、その後は尾根筋目指してバツバツと快調に伐り上がることが出来ました。午後に入って枯死した松の大木が立ちふさがり、それを伐るのに大分エネルギーを消耗してしまいました。生木よりもずっと固く、チェンソーの刃が火花を散らす有様でした。しかも大径のためにチェンソーのバーの長さすれすれなのです。さらに、桧と違って松は幹や枝がねじくれているので、重心のかかり方が読めないのが怖いのです。そんなこんなで筆者の参加した班では午前中にイメージしたほどには仕事ははかどらず、桧が40本、松2本、アベマキ2本でした。3班合計で間伐本数は桧が120本でしたから、他の班にも苦労があったようです。我々はあくまで素人なので、とにかく安全第一をもっとうに、技術を上げていきたいものです。



前夜の夕食のことも報告しておかなければなりません。木亦さんが釣ってきたマスとイワナの塩焼き、昼の「春を味わう」で残った野草の天ぷら、おひたしなどを肴にして、竹筒とっくりに仕込んだイワナの骨酒、清水さん持参の薩摩の銘酒「赤兎馬」などなど、本当に豪華な夕食で夜半まで宴は続きました。先月は三重県芦浜から直送の新鮮な干物をたらふく食べました。先々月はイノシシの頭の丸焼きに舌鼓を打ちました。毎月毎月、本当に豪華絢爛な食材がそろいます。木こり仕事に参加できない方で、夜だけ参加の方も歓迎します。一度来てみてください。

その宴をやりながら、懸案だった焼き印を桧のプレートに押ししてみました。大枚2万円をはたいて大阪の鉄工所で作ってもらったものです。大隅さんデザインで、宮沢賢治の筆跡からとった「みたけ」の3文字が「木曾川水トラスト」の8文字にはさまれています。囲炉裏で真っ赤に灼熱した焼き印を今日伐ったばかりの桧の丸太に押しつけると、白煙が上がり部屋中に桧の香りが漂いました。

萌葱色に染まり、ところどころにコバノミツバツツジの鮮やかなピンク色がアクセントを添える風景、うっとりするような温かく柔らかな空気の中で行う山仕事は本当に良い気持ちです。緑の募金からの助成金で購入した新品のチェンソーも入りました。枝打ち用ラダー(ハシゴ)も買い足されました。来月からは、より多くの皆さんの参加に応えられる体制が整いつつあります。ご友人を誘ってご参加ください。

(大沼淳一記)

1月30日に町有林整備で町と協定を結びました

PRESS RELEASE より

「NPO 市民ボランティアによる御嵩町町有林の 間伐・枝打ちについて」

当法人は、御嵩町小和沢地区に計画された巨大産業廃棄物最終処分場に関する住民投票を契機として、木曾川の水の恩恵に浴する下流域住民によって結成されました。おいしくて安全な水を享受しながら、過疎や農林業不振に苦しむ上流域を見やるまなざしを欠いてきたこれまでを反省し、上流域との交流及び支援を目的として活動してきました。その一環として、御嵩町上之郷地区でトラスト資金によって1.5ヘクタールの山林を購入し、「水源の森・みたけ」と命名し、周辺民有林の間伐や作業小屋の建設などに取り組んできました。

一方、御嵩町には800ヘクタールもの町有林があります。その管理のための予算は年間300万円に過ぎず、多くは放置林として線香かモヤシのような状態になっています。健全な森林とするためには多大な費用と人力を必要としますが、近年の厳しい財政状況や木材価格の低迷の中では困難です。

このたび、こうした状況を打破するための糸口を求めて、当法人は3ヘクタールの町有林の無償整備を担当することにしました。この程度の面積では焼け石に水かもしれませんが、広く下流域500万市民および御嵩町民が上流域で放置されている水源林の整備に参加する先駆けとなり、また起爆剤ともなることを目指しての取り組みです。

なお、この事業実施にあたって、国土緑化機構・緑の募金からの助成金を得て、チェーンソーや梯子などの機材を購入することになっていることを申し添えます。

2007年(平成19年)2月1日(木曜日) 第1版 (20)

町有林整備の協定書を交わす町長(左)と代表(右) 御嵩町役場

可児・東濃

李朝の壺 (3)
山田 裕俊
(岐阜市御嵩町)

町有林整備で協定

御嵩町と「木曾川水トラスト」

御嵩町と「木曾川水トラスト」の間に、3000平方メートルの山林を、水と土(水と土)の両方を活かすための整備協定が結ばれた。御嵩町は、町有林として管理している山林の一部を、水トラストが無償で整備することになった。水トラストは、水と土の両方を活かすための整備を目的として、御嵩町と協定を結んだ。水トラストは、水と土の両方を活かすための整備を目的として、御嵩町と協定を結んだ。水トラストは、水と土の両方を活かすための整備を目的として、御嵩町と協定を結んだ。

ボランティアが間伐、枝打ち

御嵩町と「木曾川水トラスト」の間伐、枝打ちボランティアが、町有林の一部を無償で整備することになった。水トラストは、水と土の両方を活かすための整備を目的として、御嵩町と協定を結んだ。水トラストは、水と土の両方を活かすための整備を目的として、御嵩町と協定を結んだ。

「下流域でも関心高めて」

御嵩町と「木曾川水トラスト」の間伐、枝打ちボランティアが、町有林の一部を無償で整備することになった。水トラストは、水と土の両方を活かすための整備を目的として、御嵩町と協定を結んだ。水トラストは、水と土の両方を活かすための整備を目的として、御嵩町と協定を結んだ。

中日新聞 2月1日

御嵩町町長選と 産廃処分場問題の今後



朝日新聞 4月23日

選挙の二日後、柳川町長の最後の報告会が行われ、産廃問題のこれまでの経緯や課題、今後どう終止符を打っていいのか等を話されました。柳川町長は、十二年間、「不適な場所である」と体を張って言い切られてきました。その旨と良識ある解決を古田知事にもお願いし、次の町長へ託されました。

渡辺氏は、「今回の選挙は、町民が柳川町長を卒業する選挙」と言ってられました。町が産廃問題を抱えてきたことで、町民がNOの姿勢を貫いてくれる町長に頼り切ってきたこと、一方で建設を望む声もあり、議会だけでなく、町民の間にも亀裂が深まってきていること、本来なら、これから地方自治の時代、小さな町ほど一つになってやって行ける力を持っているはずであること。この「卒業」との言葉は、産廃問題だけでなく、これからの町のあり方を、町民一人ひとりがもっと大きな視点を持って考えていく町にしていかなければとの呼び掛けであり、また、水や食の問題を、田舎町だけでなく都会に住む人達も真剣に考えていかないと限界が来ていることを意味しているのではないかと、色々厳しかった町長選を振り返り、私はそう受け止めている。

(小栗久美子記)

みたけの森まつり

5月3日に御嵩町で町主催の「みたけの森まつり」が開催されました。「みたけの森」公園を会場に、町内の様々な団体が出店をします。たこ焼きや焼そばといった、お祭りにつきものの食べ物屋もあれば、既製のキットを使った木工教室もありました。また会場内の池では魚のつかみ取りも行われました。小さな池が、あれでは魚の泳ぐ隙間がないだろう、と思うくらい、子どもたちでいっぱいになっていました。

この「森まつり」に、今年はずっと水トラストも"出店"しました。持ち込んだのは間伐したヒノキ材です。数センチの厚さに切って焼き印を押したものを用意し、机の上に並べました。パンフレットといっしょに持って帰っていただいて(もちろん無料で)、間伐材の有効利用と水トラストのPRに役立てようというねらいです。ですが、「どうぞ持って行って下さい」と声をかけると、何人もの方が「これいくらですか?」「タダでいいんですか?」という問いかけをしてくださいました。ということは、この丸太の切れ端、立派に商品価値ありと見ていただけたようです。焼き印の効果はかなり大きかったかもしれません。あらかじめ五十個ほど作ってあったのですが、昼頃にはあらかたなくなり、追加生産が必要でした。また、ご希望の方には、その場でチェーンソーを使い長い材から望みの長さで切り出して、焼き印を押してお渡ししました。これも好評で、用意した数本の丸太はほぼ"完売"しました。

さらに、小学生の子ども数人には、のこぎりで丸太を切ってもらいました。学年をたずねたら全員五年生でした。もしかしたら彼らはみな友だち同士で、一人がやっているのを見てみんなやりたくなったのかもしれませんが。直径10~15センチの細めの丸太ですが、小学生にとっては切るのはかなり大変です。その苦労して切った切り口に、自分で焼き印も押してもらいました。きっといい記念の品になったのではと思います。

この日、水トラストの"店"をおとずれてくださった方が、少しでも山仕事に興味を持って下さるといいのですが。まあ、お祭りでヒノキの切れ端を手取るのと、山に足を運んで木を切り倒すのとの間には、ちょっとギャップがあるので、山仕事の参加者がすぐに増えることはないかもしれませんが。でも、丸太がいくらかでも手に入ると聞いて、ちょっと真剣に考えていたふうなお客さんもおみえでした。また小学校の教頭先生も来て下さって、水トラストの活動の説明を聞いてくださいました。(丸太を切り終えたときの小学生のうれしそうな顔を、教頭先生にも見ていただきたかった)学校とタイアップして子どもたちにたくさん山に来てもらい、ついでに(?)親御さんにも来ていただく。ひょっとして、そういう展開が今後ある、かもしれません。

(市村正也記)



2007 年度定期総会のご案内

早いもので、また一年が過ぎてしまいました。今年度は町有林整備事業が始まり、森仕事も土日の泊まりがけになりました。「みたけの森まつり」にも初めてブースを出して、「水源の森・みたけ」や町有林整備事業についてのアピールをすることができました。来年度は、この流れをより太く広がったものとしていくと同時に、これまで手が届かなかった木曽川流域圏にネットワークを創り出すきっかけくらいはつかみたいものです。

一方、御嵩町長として3期12年をつとめてこられた柳川喜郎さんが引退されました。岐阜県知事宛に書かれた、産廃処分場計画に関する「疑問と懸念」は今読み返しても完璧な名文です。この文書が、強行されそうだった処分場計画を差し止め、その後の全国初の産廃処分場の是非を問う住民投票へとつながったのでした。御嵩町民は圧倒的多数で産廃処分場を拒否。この町民の力強い意思表示は、その後の廃棄物処理法の大改正の契機ともなりました。

今回の選挙で柳川さんから渡辺新町長へとバトンタッチがなされましたが、これと軌を一にするように岐阜県、御嵩町、産廃業者（寿和工業）による3者会談が始まりました。成り行きは楽観出来るものではないかもしれませんが、下流域住民として、その動向に高い関心を払っていかねばならないと思います。

こうした状況の中で、下記の要領で定期総会を開催します。多くの会員の皆さんの参加をお願いします。

時：6月17日（日）14：00～17：00

場所：名古屋働く人の家

（名古屋市熱田区伝馬 2-28-14 TEL 052-682-4737）

地下鉄・伝馬町下車、徒歩6～7分

- ・ 総会：2006年度事業報告および決算報告
2007年度事業計画および予算報告
その他の報告
- ・ 記念講演：喜多岳史さん「木曽川源流の今 木曽林業の現場から」
喜多さんは、水トラスト会員であり、水源の森開設以来中心となって頑張ってきた方です。現在は、木曽谷の伐採会社の伐採夫として活躍中です。町有林整備事業では、ボランティア木こりを指導する講師として、毎月木曽から駆けつけていただいています。
- ・ 懇親会

編集後記？(K.I.記)



発行

特定非営利活動法人NPO みたけ・500万人の木曾川水トラスト
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬2-28-14 名古屋働く人の家気付
TEL&FAX 052-682-4737
郵便振替00800-9-64810
URL <http://homepage3.nifty.com/mitake/>
e-mail mitake500npo@yahoo.co.jp